



校長室だより

Newsletter from the Principal 校長簡訊



自分らしい「選択」を② ～輝ける明日を創ろう～

新堀 隆久

みなさんこんにちは。寒暖差があるので、体調管理には注意しましょう。

さて、VOL.6では、「悔いのない進路選択を」と述べました。この時期、3年生のみなさんは、志望理由書や履歴書の準備が始まっている人も多いのではないのでしょうか。1・2年生のみなさんも、それぞれ2年後、1年後の今頃を想像してみてください。3年生の先輩が、進路に向けて今何をしているか、尋ねてみるとよいでしょう。

進路希望調査などでは、「人の役に立つ仕事がしたい」と書く人が少なくありません。その思い自体はとても大切です。しかし私は、ときどき「では、人の役に立たない仕事はあるのでしょうか」と問い返したくなります。

社会にはさまざまな仕事があります。医療や福祉のように目の前の人を直接支える仕事もあれば、研究、製造、物流、事務、情報システムの運用など、一見すると誰の役に立っているのか見えにくい仕事もあります。しかし、そうした仕事がなければ社会は成り立ちません。私たちが普段利用している商品やサービスも、多くの人の見えない努力によって支えられています。だからこそ、「人の役に立ちたい」という言葉だけでは、その人らしさはなかなか伝わりません。志望理由とは、本来、自分自身の興味や価値観、経験から生まれるものです。なぜその分野に惹かれるのか。どんなことに面白さを感じるのか。どのような課題に関心があるのか。そうした問いを掘り下げていくことで、自分だけの理由が見えてきます。

進路を考えるときには、「どんな仕事なら人の役に立てるか」だけでなく、「自分は何に心を動かされるのか」「どんなことをもっと知りたいのか」という視点も大切にしたいと思っています。その先にこそ、自分だけの進路のヒントがあるはずです。もし今、目の前に「10年後の自分」が現れたら、皆さんはどんな姿を思い描くでしょうか。「将来安定している仕事は何だろう」「AIに仕事を奪われない職業は何だろう」。最近はそのような話を耳にする機会が増えました。確かに、変化の激しい時代です。AIやデジタル技術が発展し、社会や働き方も大きく変わろうとしています。

しかし、進路を考えるときに本当に大切なのは、「何を身につければ生き残れるか」だけではありません。私は、「自分は何に興味を持ち、何に夢中になれるのか」という問いこそ大切だと思います。

私は進路指導をしていて、三つのことを感じます。一つ目は、「やりたいことがない」のではなく、「知らないことが多い」という場合が少なくないこと。二つ目は、人は知っている世界の中からしか進路を選べないということ。三つ目は、自分の人生を歩むのは自分であり、保護者でも先生でもないということです。

だからこそ、情報を集め、世界を広げ、自分の頭で考えることが大切なのです。

